

つつじ祭 30周年



前日の大雨一転 好天に恵まれて： つつじ祭開催

5月14日(日)、余野公園保勝会が主催するつつじ祭が、余野公園で盛大に開かれました。

数日前から、つつじ祭運営委員会メンバーならびに伊賀支所職員が、シオノギ製薬や横井製作所棟の臨時駐車場のライン引きなどを行いました。

柘植地域 まちづくりだより 第189号

また前日は業者によるステージ・テントの設置され、当日は朝8時から全スタッフの打ち合わせが行われました。

各区等から選出された駐車場係の方々、まちづくり協議会のハッピと帽子を着用し所定の場所を誘導などをしていただきました。

まちづくり協議会では、特産品創出事業実行委員会が、前日ならびに当日早朝よりあんまきを作つて、専用ブースにて出店販売いたしました。

9時50分からの開会行事では、本年が「民生委員制度100周年」とい



発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)
〒五二九-1402
電話 四五-八八八〇 FAX 四五-八八八三
発行日 二〇一七(平成)二十九年五月十五日(月)
柘植地域内12か所にカラー版設置中です



100周年シンボルマーク

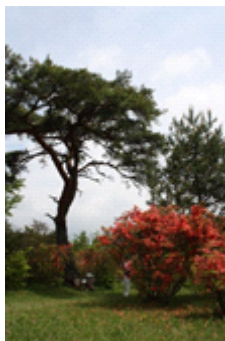


うこともあり、民生委員児童委員の皆さんによるPRがありました。



★**事務局だより**★

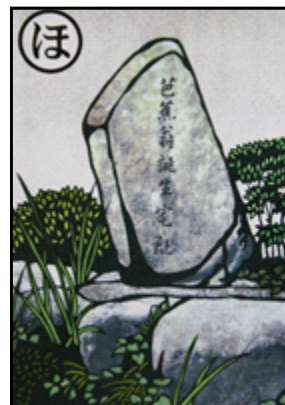
▼心地向い春風、そして満開のつつじ。▼財政厳しい中ですが、各区・まち協と余野公園保勝会が連携して、今後もこの祭を地域交流の場としていきたいものです。お疲れ様でした。(西田方計)



柘植地域俳句コーナー
幼子の
祭半纏
かきつばた
杜若
橋本秀子

シリーズ 柘植の歴史と民俗を学ぶ⑧ 「柘植のホント!かるた」より

ほんとう つげ たんじょうたくし ひ
本当は 柘植か 誕生宅址の碑



松尾芭蕉の生誕地については、上野赤坂説と柘植拝野説がある。芭蕉生誕についての書籍を調べた上野の桃井隆康氏の研究によると、江戸時代は28冊中、柘植説9冊、上野説8冊、伊賀国説10冊、両説併記1冊。明治から大正時代には29冊中、柘植説17冊、上野説10冊、伊賀国説1冊、両説併記1冊。昭和43年まででは40冊中、柘植説11冊、上野説27冊、伊賀国説1、両説併記1冊となっている。



明治33年に発表された**地理教育鉄道唱歌関西線編**には
**「伊賀焼いづる佐那具の地、芭蕉生まれし柘植の駅、
 線路左にわかるれば、迷わぬ道は草津まで」**

と出ているなど、大正時代までは柘植説の方が多かった。

しかし、昭和に入って上野説が圧倒的に多くなっている。これは昭和15年と21年に上野の芭蕉研究家の菊山当年男氏が詳細に研究した結果を2冊の本に著し、もはや芭蕉研究はこれで完結した感があった。最近はこの両書を冷静に調べると不合理な点も見いだされ見直されているようである。

「芭蕉翁誕生宅址」の碑は拝野集落の中の狭い道が交叉する傍らに忘れられたように立っている。これは近くの元家老屋敷松尾家の裏から昭和43年に現在地に移されたものである。

誕生宅址の碑の傍に案内板があり、芭蕉が元禄2年正月17日付で兄の半左工門に出した手紙の文面が書かれている。

**「山出御無事に御座候哉、御老人無二心元一存候、
 七郎左衛門方あねじゃ人御無事に御座候哉」**

(山出の皆さんは御無事ですか、お年を召されているので心配です、七郎左衛門様方におられる姉様は御無事でしょうか)



昭和36年文化財保護委員会が誕生し、その席上、愛田の竹島至郎氏から、私の家の過去帳の中に湖岸栄江大姉があり、その傍注に「実八上柘植村松尾儀左エ門娘」の記載がある(芭蕉は松尾儀左エ門の次男)との話が出た。今まで公表しなかったのは、10年ほど前に菊山当年男氏に見てもらったところ暫く考えたあと「今後一切このような不純なものは他人に見せるな」と非常に立腹されたからだとのこと。芭蕉研究家である岡村健三氏に知らせると直ちに來町され竹島家の過去帳や系図を調査研究され、湖岸栄江大姉は松尾儀左エ門の娘で四郎左衛門景勝の妻であり芭蕉の姉であることが十分考えられる事が分かった。

手紙の「あねじゃ人」とは竹島家に嫁がれた湖岸栄江大姉であり、手紙の「七郎左衛門」は四郎左衛門と発音が似ているので芭蕉の勘違いとも考えられる。

また、実兄であるから山出と言えはだれを指すのかすぐわかってもらえるからこのような文面になったと考えれば、この手紙は芭蕉柘植生誕説を裏付ける貴重な資料かも知れない。(田中重之)

